



民間活力と市民目線を主軸にした地方創生の実現

古河市長
針谷 力 氏

筑波銀行古河支店長
伊藤 博之

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県古河市です。筑波銀行古河支店長 伊藤 博之が古河市長 針谷 力氏にお話を伺いました。

古河市の地理的優位性

本市は東京圏とのアクセス性に恵まれており、例えば湘南新宿ライン・上野東京ラインを利用すると、古河駅から新宿駅まで乗り換えなしで最速59分です。

このような地理的優位性を有しているにもかかわらず、開発が都心の東側と西側から行われてきたためか、都心の北側に位置する本市の地価は、東西の同距離の都市と比べて3分の1から5分の1と非常に安価です。賃貸住宅の家賃も安価で、都内よりかなり広い間取りに加え、駐車場もついた物件が手頃な価格で借りられます。

また、古河駅周辺にはマンションが増加してきました。通勤・通学に便利な駅近のマンションに魅力を感じる人も増えてきたようです。

本市出身者を活かした施策の展開

本市から通学可能な大学が多かったこともあり、市内在住の私は大学も自宅から通いました。そのため本市を外から見たことがありません。そこで、市外で活躍している本市出身者などから外

部の目線を加えた地方創生事業を提案してもらっています。また、民間事業者の発想力やスピードを最大限に活かすことが大切だと考えているため、行政主導で作った事業に民間事業者の参加を募ることよりも、民間事業者が主体的に取り組む事業に対して補助金の交付や規制の緩和といったバックアップに力を入れています。

例えば、2022年4月にオープンしたコワーキングスペース「& FREAK.」^{*}は、株式会社デイトナ・インターナショナル（1986年に本市内で創業したアパレル企業）からの「行政と一緒に地域を盛り上げていきたい」という申し出をきっかけに実現したもので、本市は国から地方創生テレワーク交付金を受けて支援しました。「& FREAK.」は駅から遠く、近年増えている駅近の行政施設や空き店舗を改装したコワーキングスペースとは異なるものですが、ライフスタイルを提案するアパレル企業ならではの発想力や人脈を駆使したイベントなどソフト面を充実させることで、人が人を呼ぶような形で新たなコミュニティが生み出される本市の地方創生の新しい姿が形成されることを期待しています。なお、本市はこの事業の黒字化までに3年かかるという見通しを立

てましたが、デイトナ・インターナショナルはスピード感を持って黒字化を2年で達成するとしており、その意識は非常に心強いです。

ところで、本市では他の地方都市同様「人口の流出」が続いています。その大きな要因の一つは若者の進学や就職による市外への転出であり、多くの地方都市では、この流れに逆らうための施策が講じられてきました。しかし私は、デイトナ・インターナショナルの創業者をはじめとする本市出身者が日本のみならず世界を舞台に活躍していることを誇らしく感じています。彼らは世界を相手にしていても、地元古河に対する愛情を持って、本市を紹介してくれています。いずれ、東京などで「古河人会」を開催し、出身者同士の人脈を広げたり、事業のマッチングを図って新しい事業の展開につなげたりすることができるかと良いと考えています。

また、本市出身者は漫画家、アニメクリエイター、元タカラジェンヌのアーティスト、Jリーガーなど様々な分野で活躍しているため、彼らの協力を得て、各分野のイベントを開催し、集客を図ることも計画していきたいと考えています。

※コワーキングスペース「& FREAK」については、P.11も参照してください

民間との連携による観光推進

観光協会の法人化

古河市観光協会は、2022年4月に法人化し、一般社団法人となりました。当協会は、本市を代表する「古河桃まつり」や関東の奇祭「古河提灯竿もみまつり」、「古河七福神めぐり」など、多くの祭りを主催し、本市の観光振興に大きく貢献しています。協会の会員には民間の経験者も多く、独自のアイデアとネットワーク、ノウハウを持っています。本市は、今後もこの民間主体の観光協会と連携し、協会の主催する既存のイベントのブラッシュアップや多種多様な収益事業の展開、新たな観光資源の創出などの取り組みを支援し、交流人口の拡大を目指していきます。

観光資源の活用

本市の主要な施設である「道の駅 まくらがの里こが」のさらなる充実を図っていきます。直売所では地元産の野菜が人気ですが、野菜だけに頼らない呼び物をつくっていく方針です。

市内の築145年の古民家「山川邸」では、民間主導で「古河市農泊プロジェクト」が進められています。本市は補助金を交付してこの取り

組みをバックアップしていく予定であり、安定した運営のためには、農業体験と古民家での宿泊という事業内容のブラッシュアップに加え、何らかのプラスアルファが必要と感じています。

また、市内には食品や化学製品・輸送用機械など様々な業種の工場、陸上自衛隊の古河駐屯地が立地していますが、これらを観光資源として活用していくを考えています。さらに、建設現場には多種多様な工事車両がありますが、以前、お祭り会場の一角に建設業協会の協力でショベルカーなどの建設車両を展示して子ども向けの乗車体験を実施したところ、「普段乗れない大きな車両の運転席に座れた」と多くの家族連れから好評を得ました。このように、民間と連携することで、観光資源を開発できる可能性が広がると考えています。

民間と連携した取り組みの一例に、2021年11月に開催した東京から本市を経由して日光までクラシックカーで走るツアー「日本を結ぶツーリング全国魅力再発見ー古河建築名園編ー」があります。このツアーは、観光庁の事業に市内の民間事業者が採択されて実現したもので、開催時は、本市の歴史的建造物が残る街並みを走り抜けるクラシックカーを見ようと非常に多くの人が集まりました。

今後とも民間事業者との連携を深め、本市の観光資源をマッチングさせる事業をもっと増やしていきたいと考えています。



市民と協働で市をPR

2021年5月から、本市の特徴や魅力が詰まったPR冊子「古河noトリセツ（取扱説明書）」を不定期で刊行しています。これは、定住人口を増やすためのプロモーションの一つとして、転入者や転入を検討している市外の子育て世帯を対象としたものです。編集には、毎回、本市出身者と市内在住者が主体的に参加しており、「オススメの

お店「古河あるある」「方言」など、市民目線での本市の魅力が満載されています。

また、2022年4月からローカルWebマガジン「koga note.」の運営を開始しました。市民レポーター「こがキラphotoクラブ」を中心とする市内外のライターが、「トコロ」「ヒト」「タベモノ」「モノコト」などのカテゴリーに分け、ローカルな情報や愛着のあるオススめを紹介する記事を投稿しています。「こがキラphotoクラブ」は、FacebookやInstagramなどのSNSを通してまちの様々な魅力を市内外へ広く発信しています。

本市はこれからも、市民がまちづくりやイベントに関わるきっかけ作りを支援することで、まちのプロモーションを推進し、本市での暮らしに対する満足感やまちへの愛着を高め、シビックプライドの醸成や本市のファンの増加、定住人口の確保を図ります。



古河 no トリセツ

未来産業用地開発事業

圏央道沿線地域は産業用地として非常に人気が高く、本市の既存の工業団地はすべて埋まっている状況です。そこで本市では、新たな産業用地の創出に向け「未来産業用地開発事業」に取り組んでいます。

この事業は、地域未来投資促進法に基づく茨城県の支援策「未来産業基盤強化プロジェクト」を活用するもので、2022年6月、すでに国から同意を受けている「茨城県圏央道沿線地域基本計画」に、境古河インターチェンジから約3kmの「東山田・谷貝地区」を追加する同意を得ました。

今後は、地権者と協力し、この地区への企業誘致を進めていきます。誘致を目指す産業分野は、基本計画により、圏央道沿線に集積した産業分野を活用した成長ものづくり分野や、交通インフラを活用した運輸物流関連産業です。

また、未来産業用地開発事業は、人口減少抑制対策の一環として、新たな働く場を創出するとい

う側面も持っています。本市としては、雇用創出はもとより、この事業に協力してくれる農家が農業を続けられるよう、農業の合間に就労できるなど多様な働き方に対応した雇用が実現できる企業の立地を期待しています。

重層的支援体制の整備

福祉面の政策として、2022年2月に重層的支援体制を整備することを発表しました。

重層的支援体制とは、支援機関・関係者が、すべての人々の困難や生きづらさなどのどのような問題でも断らずに受け止め、つながり続ける支援体制を構築することをコンセプトに、「包括的相談支援事業」「参加支援事業」「地域づくり事業」を支援の三本柱とし、この枠組みの中に「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」「多機関協働事業」を新たに事業化して、これらを一体的に展開することで、一層の効果を出そうというものです。

従前は一つの家庭の中に母子家庭や生活保護、ヤングケアラーなどの問題があった場合、それぞれの分野で個別に対応していましたが、重層的支援体制では各分野が連携・協働して支援します。

これを実現するためには、福祉の各分野の縦割りを超えた相談支援体制づくりや、実務を担う社会福祉協議会や民間組織をコーディネートする機能の確立などが必要で、大きな負担が伴いますが、市民のために実施したいという福祉推進課の強い意欲のもと、取り入れることを決定しました。

筑波銀行に期待すること

コロナ禍で疲弊した多くの中小企業の経営を支えるため、様々な場面で、地域金融機関の役割が増しています。

企業の育成は地方創生の要であり、既存の企業の経営強化や新しい企業が誕生するためのサポートは、金融機関にしかできない役割です。筑波銀行には、創業支援、事業承継支援、マッチングなどいろいろな形で、地域密着型の支援を期待しています。

また、地域金融機関は市役所の職員よりも本市の情報を持っていることもあるので、企業への支援のみならず、空き家の情報や空き家バンクのマッチングなどへの支援も期待しています。

(取材日：2022年7月19日)



わがまちの coworking space ー古河市ー

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。

コミュニティ型 coworking space 「& FREAK.」 アンド フリーク

コミュニティ型 coworking space 「&FREAK.」は、2022年4月、ヒトやモノが行き交い、集うソーシャルストア「The Camp」 FREAK' S STORE」の2階に株式会社デイトナ・インターナショナルと古河市がタイアップして誕生しました。行政では創案できない洗練された内装やディスプレイが施され、ここで仕事をしたいと思えるような空間に仕上がりました。

フロアは大きく分けて5つのエリアに区切られ、どんなユーザーにもフィットする場所とプランを提供します。ビジネスや趣味の拠点としてだけでなく、スタジオ&イベントスペースでのアクティビティを通じて好きなことを磨き、新たな仲間とつながることができます。これから様々な分野に羽ばたく若い人達の出会いの場、古河市を出て世界中で活躍している人が帰省した時に集える場所となる空間です。

茨城県古河市中田 2268

☎0280-47-1186

“The Camp” FREAK' S STORE

☎03-6823-0899

& FREAK.



さらに詳しい情報はホームページでご確認ください

● coworking space

- ・ドロッピン利用(一時的に利用すること)
- ・利用料金…1日990円
- ・一時的に使えるテレワークボックスあり

● オフィス & アトリエ

- ・月額契約
- ・月額 33,000 円～ (場所により異なる)
- ・個人ブースから最大 10 人のスペースまで

● スタジオ&イベントスペース

- ・単日から利用可能
- ・利用料金…1時間 1,100 円～ (場所により異なる)

● エキシビジョンパーク

- ・単日から利用可能
- ・60 平米を超えるスペース
- ・利用料金…1時間 1,100 円～ (平日) / 2,200 円～ (休日)
- ・利用料金…1日 5,500 円 (平日) / 11,000 円 (休日) (物販利用の場合は一部異なる)

● カフェ&ブックス

- ・誰でも無料で利用可能 (飲食代は別途)
- ・バリューブックスセレクトの新古本を展開



カフェ&ブックス



オフィス&アトリエ



エキシビジョンパーク



スタジオ&イベントスペース



coworking space